

新入生宣誓

暖かな日差しのもと、春の息吹を感じる季節となりました。様々な地域から、世代を超え、縁あってここ星槎大学に入学した新入生一同、これからそれぞれの高い志に向け、切磋琢磨する仲間たちと集い、最高のご指導をしてくださる先生方のもとで過ごす大学生活に胸が高鳴る思いです。私たちにとって、その全てがかけがえのない宝物となり、未来への糧となるでしょう。教職員ならびに関係者の皆様方、本日は私たちのために入学式を挙げていただき、誠にありがとうございます。新入生を代表してお礼申し上げます。

私には3人の子供がいます。去年の6月のある日、小学校1年生になったばかりの末娘が「学校に行きたくない!」とソファから動かなくなっていました。理由を聞いてみても、はっきりした答えが返ってきません。嫌がる娘になんとかランドセルを背負わせ、一緒に登校しましたが、付き添う私が帰ろうとすると泣きわめき、給食も全拒否になってしまいました。

それから8ヶ月に渡る終日学校付き添い生活が始まりました。最初はその現実を受け止められず、深く落ち込み、疲れ果て、暗く長いトンネルのなかにいるような毎日に途方に暮れていました。それまで専業主婦だった私の生活は急変し、毎朝の自分のお弁当作りに加え、帰宅すれば手付かずの家事をこなし、そこから習い事への付き添い、買い出し、不満でいっぱいの子6長女と小3長男の対応に疲労困憊でした。担任の先生にいただいた「お母さんはモバイルバッテリー。」という言葉を支えに、私がいることで安心して過ごせるのならと気持ちを奮い立たせました。先生が音楽の先生ということもあり、教室は先生の奏でる素敵なメロディに包まれていました。いつも明るく優しい笑顔で、子どもの目線に立って声をかけてくださる先生のお姿は優しさに溢れていました。毎日あちこちでドラマがいっぱいでしたが、タスクの多い学校で、たとえ授業が始まっても、決して取りこぼさずに丁寧に向き合い、話を聞いて、気持ちを吐き出させてくれる先生の細やかな対応に驚き、感動の連続でした。そんな素敵な先生に出会えたことが教職を目指すきっかけになりました。

中でも、子どもたちとの対話をとても大切にされている先生の共感力、傾聴力や寄り添う姿勢に学ばせていただくことばかりでした。子どもへのポジティブな声かけや導き方、考えさせる時間を大事にされていて、自分の育児を省みる機会を何度もいただき、多くの学びがありました。子どもたちにも自信がつくような工夫や働きかけをたくさんしてくださり、子どもたちにとって教室が心落ち着ける居場所となっていくのが手に取るように伝わってきました。

先生の愛に溢れた頼もしい背中をみて、子どもたちはどんどん主体的に動けるようになり、思いやりの心が育まれていきました。そして、自己肯定感という土台をしっかりと作ってもらった子どもたちは自信に満ち溢れ、生き生きしています。また、担任の先生のみならず、多くの先生方に温かく見守られながら子どもたちが学校で日々生活していることも分かりました。思いやりや我慢、譲り合い、感謝の気持ちを伝えることなど集団における大切な心を育てていただいていることがよくわかり、学校の温かさとありがたみを感じた数カ月間でした。子どもたちと関わる中で、先生の働きかけでどんどん成長していく姿を目の当たりにし、私も彼らの伴走者になりたいと思うようになりました。そして、「2年生になったら1人で行く！」と自分で決め、先生や私に発信できた娘の成長も嬉しく思いました。私もありのままを受け止め、対話を大切に、どんなときも真摯に向き合い、寄り添い続けてくれる先生を目指し、子どもたちの伴走者になりたいと思っています。

新入生一同、「共生」の理念のもと、仲間たちと互いに尊重し合い、日々の努力を怠ることなく精進し、共に成長し続けることをここに誓います。

令和7年4月12日
星槎大学 共生科学部共生科学科
新入生代表 池谷 康恵